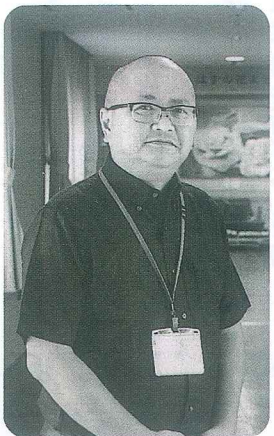


「私の先を歩む人」から学ぶ

宗門が設立母体となる特別養護老人ホーム、「ビハーラ本願寺」の施設長に7月1日、就任した。第一声は「入所者の方々が心安らぐ、『家』のような施設でありたい」。長年、宗派の人材育成部門に勤めてきた。そのかたわら平成27年に宗門校の龍谷大学大学院文学研究科臨床心理学専攻に進学し、そこで高齢者心理に出会った。「医療や福祉の現場で、不安を抱える人に共感し、その苦悩を和らげようとする宗門のビハーラ活動に感銘していた。超高齢社会を迎えた今、高齢者の生き方に自然と心が引き寄せられた」。大学院修士課程を修了し、同30年10月からはビハーラ本願寺に意向し、介護の現場に身を置いた。「僧侶として老・病・死と向き合う中で、いったい何ができるのだろうか」。この問いを持ちながらの日々から導き出した答えが、「私の先を歩む人」から学ぶ」姿勢だった。「衰えたことで気づくこと、知ることは多くある。衰えるがゆえに得ることもある。年齢を重ねた経験は、その人にしか語れない貴重なものがある。さらに、老いの視点から見える世界観を次世代に伝えることは、老いたその人にしかできないことで、それはまさに生涯発達における成長であり、それを『豊かな老い』につなぐお手伝いが私の役割」と話す。常駐僧侶の傾聴活動が同ホームの特徴のひとつ。「入所者の心に寄り添う僧侶の存在は施設に安心感を生んでいる」と語る。また、宗門のビハーラ活動者を養成する場でもあることには、「全国の門信徒をはじめとする皆さまのおかげでできた施設。ここでの学びを発信することでお返ししていきたい」 55歳。 (本願寺新報2020年8月20日号より転載)



内本 隆宏さん
(ビハーラ本願寺施設長)

京都府城陽市の特別養護老人ホーム「ビハーラ本願寺」の施設長に7月1日、就任した。大阪府高槻市・円正寺衆徒。

私はどちらに

普賢寺住職 横場清久

新型コロナウイルスに関する報道が耳目を集め初めてまもなく一年が経とうとしています。感染は更に拡大し、状況次第で誰もが罹患する可能性を秘めています。しかしながら、無症状で感染に気づかないケースも考えられる中、知らず知らずのうちに自分を善の側に置き感染リスクのある者を悪として遠ざけてはいないでしょうか。

『歎異抄』の第一条には「弥陀の本願には、老少・善悪の人をえられず、ただ信心を要とすとすべし」とあります。阿弥陀如来は、老いたる人も若者も、善人も悪人も分け隔てなく平等に救うと言われているのですが、このように善人も悪人も同様に救われていくことを不公平に感じる人も多いと思います。しかし、そのように考えている自分分は果たしてどこにいるのでしょうか。救われる側なのか、助からない側なのか、はたまた善人と悪人を判定する第三者の立場なのか。

ここで言われる「老少・善悪」とは、条件次第で善人のように振る舞い、逆にとんでもないことをしてしまうかもしれない私のことにはかなりません。固定された善人と悪人がいるのではなく、状況次第で何をすべきか分からない、危うい、弱い、悲しい存在である私がいるのです。だからこそ如来はそのような私を救いの目当てとされるのです。

「えらばれず」というのは、生涯のうちで、一年の間で、一日の中で、善人になったり悪人になったりを繰り返している私を救うという言葉といただきます。良いことをした時も悪いことをした時も、若い時も老いたる時も、病に罹った時も罹らずにいる時も、如来は私から遠ざかることはありません。



島上南組 だより

浄土真宗本願寺派
2021年(令和3年)1月
第13号
編集・発行
高槻市野田正覚寺内
島上南組実践運動委員会

組長ごあいさつ

島上南組組長 本田一成

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症により、これまで経験したことのない年となりました。新しい年を迎えたとはいえ、一向に収束の見通しが立たない現状やコロナ禍で大変な思いをされている方が沢山おられることを思いますと、新年を素直に喜ぶ心境にはなかなか出来ません。ほとんどの行事が縮小や中止となり、皆様には直接お目にかかる機会も無く、皆様が無事安穩に過ごされていることを願うばかりです。

さて、前号に引き続き続き新聞記事からのご紹介です。

「さいこの電話 どうぞ」

JR長崎線。小声の会話が耳に入ってきた。近くに座っていた六十代くらいの男女。夫婦だろうか。2人で携帯電話を見つめている。

「電話した方がよかよ」「迷惑になる。駅に着いてからでよかやん」せかず妻。周囲を気にする夫。列車は音を立て、走り続ける。2人の声も少しずつ大きくなった。

「意識がなくても耳は聞こえるって。おとうさん、待つとるよ」

「列車だから、かけられんやん」夫の父親が危篤で、駆けつけようとしている。でも間に合わないかもしれない。そんな状況が伝わってきた。どうぞ電話してください、と話かけようか。いや余計なお世話かもしれない。でも…。やっばり、声をかけよう。そう思って立ち上がるうとしたときだった。四十代くらいの女性が夫婦に近づいた。

「電話した方がいいですよ」。周りの乗客も、大きくうなずく。夫は携帯を耳にあてた。

「お袋、親父の耳元に携帯は置いて」。それから、一気に話し始めた。

「親父が一生懸命働いてくれたから、俺たちは腹いっぱい飯が食えて、少しもひもじい思いはせんかった。心配しないでよかけん」ありがとう、と語りかける言葉も聞こえてきた。電話を切った夫は下を向き、泣き声をこらえる。その肩を、妻がさすっていた。

「ひもじい」という言葉が耳にのこる。戦後の厳しい時代に育ててくれた父親への感謝だったのだろうか。「その声は届いたはず」。たまたま乗り合わせた自分が、見知らぬ誰かの最後を思う。車内みながそうだったように思えた。

(8月3日付 朝日新聞「窓」より抜粋)

今、コロナの影響でほとんどの病院や介護施設では面会に制限が設けられています。大切な家族や知人と満足に会えず辛い思いをされている方もおられることでしょうか。



南無阿弥陀仏となえれば
しんらんさまはよりそって

わたしの手を取りあゆまれる

本年もよろしくお願い致します。
(仏教讃歌「しんらんさま」より)

▽ 仏教婦人会より

島上南組仏教婦人会 尾崎潔子

今年度はコロナウイルスの感染拡大にともない、感染予防のため4月からすべての行事を取り止め、総会も文書審議と致しました。会員の皆様のご理解を得て賛成多数で可決致しましたが、やはり仏教婦人として今何をすべきであるか！

九条武子様の意思を改めて心に刻み、仏婦・若婦役員一同で相談し、長野県台風災害にタオルを差し入れさせて頂こうと、各単位にお願い致しましたところ、びっくりするくらい皆様の温かいお心とご理解において118枚も集まりました。

また、寺族婦人会様より協力金を頂き、組仏婦・若婦会計と合わせて除菌ウェットティッシュ200個を添えて長野教区に送り、教務所長様より感謝のお手紙を頂きました。

また、吹田にある本願寺子供施設の常照園に、子ども用マスク50箱(250枚)を寄付致しました。手作りマスクとも考えましたが、洗うスタッフがいないと聞き、使い捨てマスクにさせて頂きました。

こうしてなかなか活動が出来ず家にこもる日々が続く中、心が病むことなく、少しでも前に進み、仏教婦人として、一人一人ともに出来る活動をする事が大切である。と、改めて思います。

合掌



▽ 法要における新型コロナウイルス対策について
新型コロナウイルスが蔓延している中、法要の中止を余儀なくされた寺院も多いと思われませんが、法要を勤修された寺院のコロナウイルス対策についてまとめてみました。

☆西教寺(萩之庄)

9月26日(土) 永代経、報恩講(併修)

出勤法中を午前、午後二ヶ寺ずつに絞る。法中様、ご講師にはマウスシールドを配り飛沫防止に留意。参拝者はマスク着用、本堂入口でアルコールを用意し手指の消毒をしてもらう。本堂内では席の間隔をとり午前組、午後組に分かれて参拝されるように参拝人数を振り分けた。

本堂の扉は開放し大型扇風機二台を稼働させた。昼のお斎は中止、法要も御伝鈔拝読を省いて短縮、講師による法話は予定通り50分二座で実施した。

☆西法寺(東天川)

11月1日(日) 報恩講

本堂の扉を開けたまま、席を離して15席用意し、ソーシャルディスタンスを保ちながら、入堂・退堂の折にアルコール消毒を実施した。正信偈をお勤めし法話は数分にとどめた。

今回初めて若い役員さんによる法要のオンライン配信を実施。新しいことも取り入れながら、新たなご縁を広げるため、今後もSNSを利用したオンライン配信をする予定。



☆法善寺(西冠)

永代経法要は、4月25日(土)午後2時より勤修した。総代と相談し、3密を避けてマスクの着用・手指消毒と換気等の感染対策をして、役員6名のみで勤めた。住職の法話は、DVDの映像を使って行った。後日、門徒総会資料と法要の写真を各門徒へ配付した。報恩講法要は、当初11月28日(土)の午前、午後の2座を予定していたが、10月下旬には、規模を縮小し午後のみ講師を招いて勤めることに決めて案内した。しかし、11月に入って第3波の中、最終的には永代経法要と同様に、感染対策をして6名の寺役員で勤め、住職が法話をした。

☆西應寺(大塚)

11月7日(土) 永代経、報恩講(併修)
14時から永代経開關法要、19時から報恩講法要を勤修した。お参りは各座とも寺族、役員等20名程度に限定し、消毒、検温、ソーシャルディスタンスをとって執行した。二座とも副住職が法話。当初は二日間三座で勤修予定であったが役員会で協議のうえ一日の執行にした。

☆西法寺(梶原)

永代経法要は5月9日(土)、報恩講法要は11月14日(土)いずれも14時より住職、坊守、門徒総代で勤修した。アルコール消毒、マスク着用で席を離し、換気も考えて執行した。

☆一念寺(下田部)

5月の永代経は住職、仏婦、役員のみで執行。参拝者は焼香のみ。11月の報恩講は参拝者、法中方にはマスク着用、検温、手指消毒、ソーシャルディスタンスをとって勤修。講師はフェイスガードを着用し、講台にアクリル板を置いて通常通り法話を実施。法要を中止すれば寺の本分であるみ教えを伝えることが難しいので国がコロナ対策をしつつ経済活動を回しているのと同様に自問自答の上、執行した。

☆安楽寺(辻子)

11月28日(土) 永代経10時、報恩講14時(併修)

法話は中止とし、各法要後、住職より感話を行なう。昼のお斎、仏教讃歌は中止。法中は安楽寺所属僧侶のみ、参集者はマスクの着用、本堂の扉や窓は解放のうえ階段下に焼香台やスピーカー等に移設し、境内には暖房、イスを設置し、住職・寺族・護持役員・仏婦役員等で勤めた

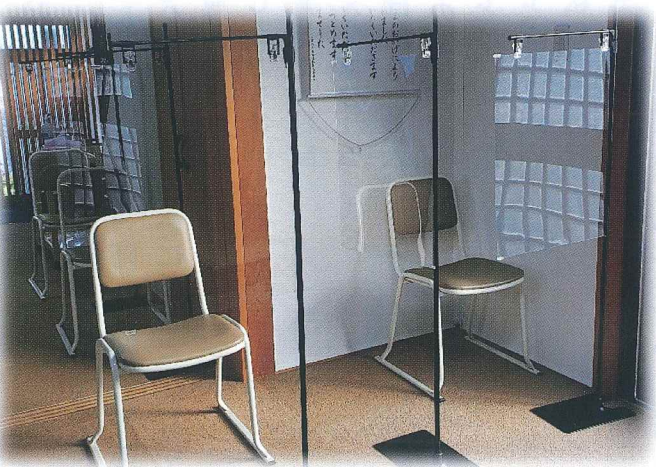
☆久宝寺(大手町)

11月21日(土) 10時、14時。報恩講

11月22日(日) 10時、報恩講、永代経(併修)
ソーシャルディスタンスを保つため、参拝者の人数を事前に把握し、制限をかけ、希望者の方には自宅での報恩講参りをさせていただくことにした。三座とも久宝寺の法中が法話。参拝された方には座席間の距離を取り、各座席の前にアクリル板を設置、併せて、アルコール消毒、検温(非接触型)、マスク着用、換気にご協力いただいた。

ご縁が途切れぬよう普段の法事も希望の方にはラインやズームを使いリモートで対応できるようにした。

無参拝での法事の際に参列できない方に向けて法事の様子をDVDに録画し配布した。



ころばぬ先の杖
ころんども
安心の杖

